

540731

初12544第

第9門

附屬書類添附

大正六年十月十九日接受

雙鷺

第1課

森田



満

參謀部第六壹號

謀 號ノ件報告

大正六年十月十三日關東都督府陸軍參謀長高山

外務次官幣原喜重郎殿

別冊謀第壹八號及報告候也



陸軍

MT 1614 6 4413

謀

第一〇八號

大正六年十月十六日關東都督府陸軍參謀部

目次

支那時事

支那吉林事件報(其ノ九)

MT 1614 6 4414

REEL No. 1-0657

0223

510732

支那時事

吉林事件報(其ノ九)

吉林事件落着ノ内容

(吉林機関報)

吉林省長郭宗熙及吉林特派交涉署々員黃文華ノ語ル所ヲ綜合スルニ吉林事件ハ宣慰使對孟恩遠間ニ於テ左ノ如キ條件ニ依リ妥協成立シタモトノ如ク其ノ内容ハ

- (一) 督軍交迭ノ命令ハ中央ノ威信ヲ損セサル為取消ササルコト
- (二) 中央ノ命令ニ依リ孟督軍ノ晉京ハ免セラ

MT

1614 6 4415

(三) 目下ノ時局ハ西南多事ノ際ナルヲ以テ政府ハ大局維持ノ為武力ヲ以テ壓伏スルノ措置ヲ避ケ暫ク孟督軍ヲ責成シテ全省ノ秩序ヲ恢復セシムルコト

(四) 孟督軍ノ位置ハ暫時現狀ノ儘トシ來春ヲ俟テテ孟ヨリ辭表ヲ呈出スルコト

(五) 今回ノ事件ニ關連セル旅長其ノ他ニ對スル處分ハ免レシムルコト

(六) 第五混成旅ノ編成ハ經費ノ支出困難ニ付取消スルコト

等ニシテ孟恩遠ニ在リテハ稍々其ノ面目ヲ保

MT

1614 6 4416

540733

持シ得タルヲ喜ヒ六月督軍署ニ於テ宣慰使ニ
對シ盛大ケル送別宴ヲ開キタルカ之ニテ事件
モ畧ニ落着ク告ケタルヲ以テ各方面ニ出動セ
シメタル軍隊ニ對シテハ近々引揚命令發セラ
ルヘク尚聞ク所ニ依レハ敘上ノ如ク平穩ニ解
決シタルハ畢竟政府力對南政策上ニ多少ノ影
響アルヲ顧慮セルニ依ルト雖過日奉天山東ノ兩省ヲ
除ク十七省ノ督軍及都統等ヨリ大總統ニ對シ
テ孟留任ヲ電請シタルカ有力ナル原因ナリト云
フ

MT

1614 6 4417

本書發送先

関東都督府民政長 同警務總長 関東憲兵隊長
參謀次長 陸軍次官 外務次官
支那公使館附武官 坂西少將 支那駐屯軍司令官
青島守備軍參謀長 中支那派遣隊司令官 上海駐在武官
朝鮮總督府附武官 朝鮮駐劄憲兵隊長 朝鮮駐劄憲兵隊長
台湾總督府陸軍參謀長 獨立守備隊司令官 第七師團參謀長
南滿洲鐵道株式會社理事長

MT

1614 6 4418

大正六年十月十九日接受

駐政務局

第課

〇流

大正六年十月十四日 朝憲機第三五二號

間島派遣員報告

十月廿九日朝憲機第三三〇號 辨参照

540734
補12546號

第3門

十一月三日吉林孟督軍ヨリ延吉道尹宛
孟督軍ハ留任ニ付延吉琿春駐屯軍隊ノ
長春出發動ハ之ヲ取止ムヘシトノ電報ア
リ之カ爲既ニ出發シタル軍隊ハ途中ヨ
リ引返シ各駐屯地ニ復發スルコトトナ
レリト又十一月二日督帶官門振中ノ指
揮ニテ吉林ニ向ヒタル軍隊(十月三日朝憲機

MT 1614 6 4419

第三三七號参照)ハ十一月三日午後局子街南

營ニ發還シ百草溝駐屯部隊ハ翌四日局

子街出發發發營ノ途ニ就ケリ

以上

報告通報先

總督 政務總監 總務局長

陸軍大臣 參謀總長 關東都督

軍司令官 師團長 憲兵司令官

内閣書記官長 拓殖局長官 外務次官

關都警務總長

MT 1614 6 4420

540735

第12547號

大正六年十月十九日接
大正六年
十月十五日

憲政務局
第三三五三號

第一課

滿

一 吉林省内ノ警察統一ニ関スル件
圖們江方面支那領情況彙報

鏡城憲兵隊長報告

吉林督軍ハ今般省内ノ警察統一ノ目的ヲ以テ從來各縣知事ノ職權範圍ニ屬シタル縣警察直轄トシテ吉林警察總局ノ權ハ主トシテタル趣ニテ琿春地

方ニ於テハ十一月一日ヨリ之ヲ實施スルニ至レリ其ノ結果該縣警察署ハ罰金二十圓以上送付スルコトトナシテ審判廳ニ送付スルコトトナシ

以上

報告通報先
總務局長
陸軍大臣
軍司令官
内閣書記官長
蘭督警務總長
政務總監
參謀總長
師團長
拓殖局長
總務局長
關東都督
憲兵司令官
外務次官

MT

1614 6

4422

MT

1614 6

4421

12548 540736

大正六年十月十九日接受
駐政務局
大正六年十月十五日
朝憲機第三五四號

第一課

圖們江方面支那領情況彙報

一 支那軍隊出動等ニ関スル件

鏡城憲兵隊長報告

敦化縣駐屯ノ歩兵一營ハ十月二十五日長

春ニ向テ出動シタルカ同地方ノ守備トシ

テ保衛團員二百名ヲ募集シ敦化ニ駐屯セ

シメタリト

慶興對岸駐屯ノ支那軍隊ハ十一月二日突

然出動中止ヲ命セラレタリトテ飯化鮮人

等ノ徵募ヲ取止メタルカ一般人民ハ何レ

モ歡喜シ居レリ

琿春地方軍隊出動ニ関シ同地商務會ハ十

月二十六日吉林督軍宛軍隊全部移動セハ

馬賊跳梁スヘク從テ日本領事館ハ再々自

國人民保護ノ名ノ許ニ軍隊ヲ招致スルニ

至ル虞アリ依テ是非共一ケ營ノ兵力ヲ琿

春ニ残留セラレ度旨電請セリ又琿春居住

支那有力者ハ協議ノ結果軍隊出動後自衛策

トセラ各戸ニ銃器彈藥ヲ備附スルツトニ

MT

1614 6

4424

MT

1614 6

4423

540737

決レ市内商店へ銃器彈藥高十餘戸アリ
ヨリ之ヲ購求レツツアリ

以上

報告通報先

總督

陸軍大臣

軍司令官

内閣書記官長

閣中事務總長

政務總監

參謀總長

師團長

拓殖局長官

總務局長

関東都督

憲兵司令官

外務次官

MT

1614 6

4425

REEL No. 1-0657

0229

大正六年十月十九日接受

駐政務高 第二課

機密送第一八號

大正六年十一月十二日

在 掛 鹿

外務大臣 吉原大藏



外務大臣 法學博士 子爵 本野 一郎 殿

許蘭洲ノ部隊之可々哈爾濱ニ駐シ

報告ニ付

本件ニ関シテハ不取敢於電第五號ヲ以テ及報告

置矣が本月十日小官が許蘭洲以下支那官吏

ヲ招宴シタル際許蘭洲ノ親シク小官ニ許諾セル

文ニヨレバ

在鐵嶺領事館 柳鹿分館

黑龍江省ニ於ケル隊長巴英額及英順兩名ハ

師長並ニ鍍身使ニ昇任ノ内定迄得タルニ相

ラズ猶不平ヲ抱キテ鮑督軍ニ對シ強要スル如

アリタル結果北京政府ニ於テハ英順ノ職ヲ免ジ

巴英額ヲ依願免官ト爲スコトニ決シタルバ其後

後處置ニ對シ人命ヲ尋ハシテ更ニ可々哈爾濱ニ

クコトナレリ行路ハ當地ヨリ云主領、農安、扶

餘シ終テ松花江ノ邊ニ來テ大街道ニシテ日

教約ニ週間餘ヲ要シテ到達スル見込ナルガ事

ハ英順及巴英額ニ於テモ武力及抗ノ態平ニシ

テズシテ平和ニ解決セラルナラシテ事件解決

後ハ兩地ニ歸來セザル意郷向ナリ之々

ト諸ノ其他同人ノは吻ヨリ想像スルニ或ハ在

MT

1614 6 4427

MT

1614 6 4426

540739

天張督軍トノ間ニ契アリテ黑龍江省ニ於ケル
督軍他日ノ後継者ニ擬セラレ居ルニハアラザルコト
推測セラル
右及報告云 敬具

本信字送付先

北京、昇平天、鐵嶺、海龍、齊々哈爾

在鐵嶺領事館掏應分館

MT 1614 6 4423

REEL No. 1-0657

0231

540740
第12530號

大正六年七月十九日接受

陸軍省

第課

陸

軍

電報

參謀總長宛

在 北京 齊藤少將

支社第百三十三號

取扱者

七月十九日午前七時四十分發

本夕帰着ス、一昨九日奉天ニテ高山少將ト共ニ張作霖
ヲ訪ヒタル際東三省ノ情况ヲ質問シタルニ張ハ吉林同
題ハ既ニ解決セリ黑龍江省ニ対シテハ尚血ヲ流ス決心
ニテ接衝スルハ要アリ但シ其行動如何ハ三政府ノ命
令ニ待テサルヘカラス黑龍江ノ英巴圖旅長ハ吉林ニ連署
ヲ取リテアリ故ニ彼等ノ死命ヲ制スルカ否ハ先ツ吉林
題ヲ解決スルハ要ナルト幸ニシテ吾等解決セリト述ハ
シ意氣頓ル昂然タルモノアリ又張ハ蓋恩遠ハ其中ニ
自ラ吉林ヲ撤退セサルヘカラス至ルハ一回ノ事件トシテ

陸軍

MT 1614 6 4429

其部下カ一身上ノ利害關係ヲリ煽動セルニ過キス蓋ノ
後任田中主ハ多年ノ知己ナリ上述ハ敢テ其来任ヲ拒マ
サルモ去リトテ又歡迎スル意思モ見ハサリキ本日天津ニ於テ
沿水工事視察ノ後張元洪ヲ訪フ彼ハ非常ニ會談
ヲ希望スル如キ状アリ本職ハ支那ハ大体ノ統一ニ氣多
ク待テ日本ヲ訪問セバ又優待ノ望ムヘント志ハシニ然ラ自
分ニ人ノ男子ノ將來日本ニ留学セシムル種リニテ自下
其準備アリナシトアリ予ハ此種ヲ見テ日本ニ至リ右文
ノ教育ノ進歩ヲセニテ予ハ幸甚ストおもハタリ席上ニ在リシ
劉秘書ハ凡ソ明白年譜ノ考セシムル考ナリ又張ハ近來
其財産ノ一部ヲ日本貨幣ニ交換シ權慶正金銀ヲ
ニ欲金ナト云フ時尙ニ致キ張ノ態度ヲ注目セシメ
北方ノ勢力ヲ対峙シタスニ容易ナラサルモ去リトテ

陸軍

MT 1614 6 4430

湖北督軍王台元、趙河都統姜桂題、直隸
 督軍曹錕、江蘇督軍李純、安徽督軍倪
 嗣沖、河南督軍趙倜、浙江督軍楊善德
 江蘇督軍傅先遠、福建督軍李厚基、陝西
 督軍陳樹藩、直隸督軍鏡貴卿、山西
 督軍盧永祥、江蘇省長齊耀珊、浙江省長齊耀
 珊、河南省長田文烈、馮總統段總理之
 名電表

吉林督軍趙恩遠ハ奉天內用セリ西部ノ將士情
 挽馬、切ナルヲ政府ノ電報是激道シムノ詞
 アリト比口即々專電撰詢キ、前々運督軍ノ極
 力維持シ身ヲ以テ在陣ノ陣ヲ拒シ務メラ
 シト中央ノ威信ト個人ノ名譽ト伴ツラ心ト爲ス
 之ノ愛ス者ト以テ之ノ害ス遠マシク其罪大ク重
 ツルカレシトモ切切ノ各都世ヲ勸導感激使
 後ト辨、中央ノ處分ノ候タレシ以事ハ已、解決ス
 古元等ハ何ゾ敢テ再、運送ノ爲メ、惟々教カ
 シ教員ノ始々奸人有、復併ノ訴法、涉及ス
 リ其部下ハ其事ノ發生ハ運督ハ正、都中即病
 追隨切近ト共、他ナキヲ信ム、疑ハ、府ニシ
 ツ侍任責深キハ、何ゾ其ノ同、決意ヲ致スナキニ
 惟々奉、訓ノ際、此ノ告許ノ時、當リタルハ其事
 又、扶怨ノ構ハ、レシ群情博懼トサナク古元等
 ハ既、形ホ、底竊ニ擇レ、運督ノ署名ノ高將軍
 性、忠誠トナリ、領念ト以テ各部ノ行為ハ或ハ稍
 正軌ノ論ルリ免一サレ既、己、善カ、降一壁トスバ

MT 1614 6 4434

MT 1614 6 4433

540743

540744

898

少ク徳允ノ聽ク、依テ着訴汝列名ノ人主
 上ノ聞ク職務ノ撤去トシテ故ナリト改修ノ明察ヲ
 断ナル自ツ其刀風ヲ長え、任セザレト吉林ハ強
 鄰、密通レ暗キ波折レク外人ノ欲望ヲ故チ
 易シ占元等外ト東鄰ノ責言果レテ内々平
 四相信多ク至津ノ念ト散ラ山位ノ嫌ヲ断ク
 又代多思命ツ乞フ仍チ驚ラ至措テ去ル
 様宜銜恨モノ、改命底定テ信々再ニ酌
 換星移ヲ行ヒ情思ノ部曲シレテ徐ロ、以テ
 遠圍リ渙釋セシメ諒為食ニ其私念ノ望フ
 之ヲ得セタハ中央、在テハ既ニ思成年廢ノ是
 昔シテ道退以テ裕如タリメ人僕カ、一人感奮
 ノ私ノ為シク、たまニ感、而爾其贈ノ整免ノ慶を元
 在支那日本公使館

退電高格意見相 伺ヒ謹シテ連名依テ思
 施シテ仰キ新ラタハ下悦シ係登レ曲クシテ形
 ノ如クコレシ

MT 1614 6 : 4436

MT 1614 6 4435

REEL No. 1-0657

0235

540744

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

文書

電信課長

第273号

奉天發 大正六年十月二十日 前一二五
本有着 右九三七

水野外務大臣 赤塚總領事

第273号

在支公使發本官宛電報第273号

張奉天督軍ヨリ陸軍第28師長ノ

兼任(兼) 懇請セルニ付之ヲ許シ汲金純ヲ

同師長ニ任スル旨十一月十九日付大總統

令ヲ以テ公布セラル

參政官
副參政官

第2門

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第2門

本野外務大臣

根津外務代理

鐵嶺發 大正六年十月二十日 前一二五
本有着 右八二〇

往電第44号ノ宛

出動セル当地百五團一營ハ昌圖反側原

ノニ營ト合シ梁團長指揮ノ下ニ西安縣

駐屯中ナリシカ吉林 匪徒方面ノ時局平

定ニ向ヒタル為メ全部帰隊ヲ命セラレ

当地一營ハ本日夕刻歸來ノ豫定尚張作

相ノ引率スル奉天軍ハ伊通盤石兩縣ニ

MT 1614 6 4438

左形力及ノ

MT 1614 6 4437

540745

駐屯中ナリトモ是迄々帰来スル由ナリ
右世系奉天長春ニ轉電ス

MT

1614 6 4439

REEL No. 1-0657

0237

540746

大正六年
五月廿七日

憲機三五五號

大正六年六月廿一日接受

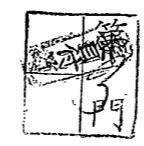
警務

第一課

藤

満

手形が及



秘12637

再新任江方面支那領情況彙報

再新任安東縣知事ハ旧任蕪知事カ免角病

ニ勝ニテ殆ト事務ヲ部下ニ委ネアリシ結

果不整理ノ事項多シト爲シ之カ刷新改善

ヲ爲スヘシトテ十一月七日縣内各區官及

保衛團總等ヲ召集シ左ハ事項ヲ決議シ實

行スルコトトシタルカ各區官團總等ハ新

任知事ニ対シ寧ロ恐怖ノ念ヲ抱キ居ル状

態ナリト

一 清郷ヲ實行シ戸口ヲ精査シ戸口簿ヲ整

頓シテ匪黨ヲ事前ニ取締ルコト

二 民國五年及六年度未納ノ田賦租税ヲ全

部徴收スルコト

三 現今盜匪出没ノ時季ニ在ルヲ以テ各區

官團總ハ一齊ニ注意警査シテ賊匪ノ入

境ヲ豫防スルコト

四 今後各區内ニ發生シタル事件ハ細大ヲ

不問總テ區官團總ニ其ノ全責任ヲ負擔

MT 1614 6 4441

MT 1614 6 4440

540747

報 告 通 報 先
以 上
セ シ ム ル コ ト

總 督
陸 軍 大 臣
軍 司 令 官
内 閣 書 記 官 長
關 東 警 務 總 長

政 務 總 監
參 謀 總 長
師 團 長
拓 殖 局 長 官

總 務 局 長
關 東 都 督
憲 兵 司 令 官
外 務 次 官

MT 1614 6 4442

REEL No. 1-0657

0239

540748

12765

大正六年七月廿二日接受

駐政務局

第一課

森田

電報

取扱者

七月十四日午前七時十分發

土肥 大村

在

參謀總長宛

坂起 秘 二九〇

本日高山參謀長宛に電ヲ送セリ
 閣下電一二ニテ以テ御命令ノ政府新ニ吉林ノ郭省長
 ニ督軍ヲ命ジタリト件未タ斯カル命令ニ表セラレサルニ
 或ハ内命筆ヲ下シタルコトアルヤヲ疑ヒ昨日總統府軍
 事辦事處長ニ問ヒタルニ全然之ヲ否認シ本日又國
 務院參事劉崇傑ニ質シタルニ數日前郭省長ハ
 一先上京ヲ請願シ来リタル以テ政府ハ之ニ許可ヲ與
 ハタリ過般ノ事件ヨリ著シク疑心暗鬼ヲ懷ケル談
 者生々ハ之ヲ以テ督軍兼任ノ内命ト判断シタルニ

陸軍

MT 1614 6 4443

満

アラズヤ云々ト語レリ矣考査迄

陸軍

MT 1614 6 4444

540749

大臣

官

部

電信課長



一四八
用 録 表 大正三年十一月二十日 第七五〇

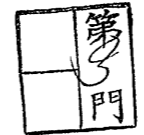
本野外務大臣

本野外務大臣

根津事務代理

第五七號

德電第五七號 閣下張作相人所屬部隊全
部ヲ率ヒ本日拂曉當地通過歸奉途
ニ就ケリ、右北京奉天、轉電ス



會計 文書

人事

通商

政務

參政官

副參政官

MT

1614 6 4445

満

REEL No. 1-0657

0241

540750

第12855號

第門

大正六年十月廿四日接受

駐務高 第一課

機密第二口

森田

大正六年十一月十三日

在尚子街

分館主任外務書記生木島仙藏

外務大臣法澤博子爵本野一郎殿

孟督軍軍更迭、周之滿地右界ノ

情況報告、件

去月十八日附大總統令ヲ以テ吉林督軍孟恩遠ヲ撤威將軍ニ任シ田中至ッ吉林督軍ニ任命シタルノ報、同月二十四日、至リ突如延吉道尹公署ニ達シタルヨリ官民ノ驚愕ノ方ナラ

在間島日本領事館局子街分館

不張道尹ハ翌二十五日孟團長ヲ審判廳長吳煇察廳長劉延吉縣知事其他當街ニ於テ各界ノ重立タル者數十名ヲ通署ニ招集シテ吉林ヨリ來電ヲ示シ善後策ニ就キ鳩首協議ヲ凝ラシ其結果官紳聯合ニ連名ニテ北京政府並ニ吉林省長吳孟督軍ノ留任ヲ電請セリ然レ此亦報ト殆ト同時ニ滿地駐屯孟團長先ニ吉林ヨリ兵士ノ出動ヲ命ジ來レルニ軍隊全部ノ出動ハ當方面ノ治安ヲ維持スルニ於テ大影響ヲ及ボスヘキ重大問題ナリ以テ是又各界人士評議、本團長及ビ吉林督軍公署、向ケ列強ノノ邊動ニ着目セリ而カモ吉林ヨリ、入電ハ切ニ孟團長ノ出動ヲ促シ來レルニ電文中不審、箇知

手紙の返(付)の

日

MT

1614 6 4447

MT

1614 6 4446

REEL No. 1-0657

0242

アリニ居テ直、同團長ヲ督軍宛照會セシメ會々電
 線、故障ヲ生シ數日同当地吉林間、電信ハ不通ノ
 情態ニ陥リ然レモ軍隊劇々於テハ何時又キ々出
 發ノ命令、接スルマキヤハ計リ知可カラサルヲ以テ直團長
 ハ直ニ各地分營、隊長、向テ急遽本營、集合ノ命
 ツ發シ汪清延吉和龍三縣下、駐屯セル各派遣隊
 ハ續々トシテ當地、來集セリ是ヨリ先キ直團長ノ
 配下ナル敦化縣駐屯、第一營ハ既ニ二十五日ヨリテ
 吉林ヨリ、命ヲ受テ省城ニ出發セリト、報團長、許
 二達ヨリ而シテ團部現在、兵員ハ步兵約二百名馬隊
 約五十名位ニシテ馬隊、半數ハ數箇月前用務ヲ
 帶ヒテ吉林ニ出向シタル後未ダ帰營セズ步兵
 員數、如キニ足員アリ、違、少數ナリ

在間島日本領事館局子街分館

新、如ク吉林長春地方、情況ハ電信不通、為テ詳
 知スルヲ得ル當地、支那官民ハ僅、本邦新聞紙ノ
 電報欄、依リ吉林、情勢ヲ必規知在、過キサルノ
 有様ニシテ從テ揣摩臆測シ逞フシ民心稍不安
 ヲ感シワ、フル折換ニ十六日彈者ヲ出發シタル同地
 駐屯、步兵約二百名ハ行進中雨雪ニ逼
 ヒタル為テ豫定日數ヨリ稍遅レテ三十日當地ニ入レ
 ルヲ以テ一部高民間ニ兵士、掠奪ヲ恐レテ大、憂
 慮セリ然レモ該隊ハ翌三十一日午前十一時頃當
 地ヲ出發シ銅佛者街ヲ經テ吉林、向テ直團長
 モ而同日午後三時馬隊二十名ヲ率ヒ先發トシテ
 吉林、急行セリサレバ當地軍隊、出動ニ近キ、
 在リト推測シ各部隊、保衛團ハ俄、増員シ

MT 1614 6 | 4449

MT 1614 6 | 4448

縣警察事務所、於ラニ新ニ炮手數十名ヲ募リ
 當地商務會、如キニ今同様にテ商團ヲ組織シ團總
 一名正目三名副目三名團勇二十五名ヲ募リ集ル自
 衛、遠ヲ講テアリ爲メニ物情騒然論者百出シ
 兵士馬賊、横行掠奪ヲ恐ル、念日ヲ逐フテ高ヨリ
 車馬、如キニ多クハ軍用、徵發セラレ時令ハ嚴冬
 向ヒ新以撤出、期、入ルニ軍隔リ、徵發ヲ
 恐レラ附近部所ヨリ車馬未集スルニ少ナク商
 況頓、不況發、陷リ其間道平ヨリニ邊民心
 頗、怖ナ御告ヲ出シタルニ拘ハラズ其効ナク
 不安、裡、時日ヲ經過レ本月七八日、如キハ其絶
 頂、達シ支那警察所ヨリ支縣商民、對シ
 現金保管、危険ヲ警告セル所ナク彼等、中
 口現金其他貴重品ヲ安全ト思惟スル象見、依
 托セルニ少カラズ
 然レ七日ニ至リ次、如キ震文吉林ヨリ来リタルヲ以
 テ道平ハ翌日之レツ各方面ニ轉達シ
 道平轉各縣知事均警中央來使宜慰府
 院迄電督軍力疾從公暫不去任帥之在
 已旋本日日照視事一切規復原狀司令部
 自應取消以免紛收特此奉聞即希查
 照裝具勳章印
 此ノ報、接スルト同時、途中迄進發シタル彈者
 ノ兵隊ハ續々當地ニ引戻シ来リテ帰還ノ途ニ
 就キ一旦本營、集合シタル各地派遣ノ部隊之亦
 丈々各隊、獲歸セルニ多ク今尚當地、殘留

在間島日本領事館周子街分館

MT 1614 6 4451

MT 1614 6 4450

540753

セルハ極ノテ少数ニシテ何レ近々全部引上ルコト、是レ
ク昨今漸ク人心平穩、帰シ布況旧ニ復セントシテ
、アリ斯ノ如ク吉長地方騷擾ノ餘波ハ遠ク間島地方
ニ及び殆ド二旬ノ間民心不安、念ヲ興、當地経済ニモ
少ナカラザル打撃ヲ蒙ラシメタリ

右電ヲ補足傍此故報告申進候致具

在間島日本領事館局子街分館

MT 1614 6 : 4452

REEL No. 1-0657

0245

附屬書類添付

大正六年十月廿四日接受

陸軍省

陸軍部

陸軍課

公第 志 志 八 號

大正六年十月十五日

在 典 辰 安

副 領 事 佐 木 静 五



外務大臣法學博士子爵本野(即殿)

軍隊移動其他ニ案ニ報告之件

扶農鎮守使農安ハ移轉ノ噂ニ案ニテハ本月十日附公第志志六號ヲ以テ及報告置候處去ル十三日張騎兵團長及董參謀等二三編部ト共ニ步兵二營ヲ帶同シ當地ニ乘着シ翌十四日ニ至リ扶農鎮守使高士儼六營ヲ率

在長春日本領事館農安分館

ヒ當地ニ乘着シテ司令部ヲ北門内美増福ニ置キ各部隊ハ商泉ニ分宿シテ目下市内甚だ混雜ノ極メ居リ候尚是等者部隊ハ最ニ高士儼節制ノモトニ長嶺縣ニ駐屯シ居リタルモノニテ吉林第四旅全部及第一旅、第三旅ノ各一營ヨリ成リ張騎砲機彗銃隊ヲ併セ合計三十余部營ト称セラル高當地步兵團副官王克宙ノ言ニ據レハ今回ノ移動ハ當ニ一時的ノモノニシテ將來永久ニ當地駐在スルキモノニアラザルモ今高何地ニ派駐スルキヤハ未定ナリトノフトニ候ハ或ハ近時奉天軍力北方ニ出動シテ吉林者思フ壓迫シツアリトノ噂ニ鑑ミ彼等が奉天者思フ接壤スル

支那方面(内)

○ 港

540754

受50904

第 門

MT

1614 6

4454

MT

1614 6

4453

REEL No. 1-0657

0245

長嶺縣ニ駐在シテ徒ニ無益ノ御案ヲ惹起
 セシコトヲ慮リテ(時的)今回、積動ヲ生シタル
 モノニアラスヤト被考候尚鎮守使ハ本日附ヲ
 以テ別紙訳文鳴ノ通シ佈告ヲ揭示シテ商民
 慰撫●安堵ニ勉メ居ルモ一般ニ今後ノ形勢カ
 如何ニ成行クカラ怪訝シ内心甚々憂慮シ
 勸操シツ、アリ高例年ハ當地市場力目今
 出廻ノ最盛時期ニ到ルノキモ今年ハ地方振
 民カ馬車ノ徴費セラル、コトヲ恐レ出廻ヲ
 手控ハ居ルカ為メ市場蕭條ヲ極メ居候
 所及御報告候敬具

本信鳴送付先 在公使、在奉天總領事、
 在長春領事、在奉天都督

在長春日本領事館農安分館

MT 1614 6 4455

540756

寫

譯文

佈告

匪氣靖ナラスンハ警備宜シク嚴テハシ査スルニ農安一
 帯ハ要衝ノ地ナリコノ冬當緊要ノ時ニ際シテ兵ヲ重ク
 テ警備スルニアラサスレハ恐クハ匪徒と虚ニ集スルコトアラシ
 ニ歩騎砲機関銃ノ各隊ヲ移動シテ農安ニ駐在セシム
 ニ至ンコト来ヨリ嚴ニ匪患ヲ防備シ地ノ力ヲ保衛セントスルノ
 見地ニ外ナラス爾商民等該言ヲ輕聽シ疑ト慮ヲ滋クス
 ルコト勿シ惟ク農安ノ市場ハ繁盛ニシテ日南雜店ノ地
 タリ兵士等金暇ヲ得テ外出シ又ハ物品購入ノタメ市場ニ
 到ルノ時務メテ敦睦和平ヲ重シシ軍紀ヲ嚴守シテ以テ
 整肅ヲ保ツヘシ若シ不肖ニシテ兵士等妄動シ騷擾ヲ醸
 ストアラハ隨時派員シテ之カ取締ニ任シ罪過ヲ査定シ

在長春日本領事館農安分館

テ法ニ按リ嚴重ニ懲罰トシ聊カモ實然スルコトナシ爾
 商民等亦克ク公道ノ公買ニテテテ物價ヲ鈞上テテ軍
 需品ノ購買ヲ妨グルコトヲ得ズ此ニ佈告ヲシテ軍民
 一体ニ遵守セシム散テ遠埃ナカランコトヲ期ス

中華民國六年十一月十五日

扶農鎮守使 高士儼

MT 1614 6 4457

MT 1614 6 4456

REEL No. 1-0657

0248

540757

第51052號

第3門

公信第 六七號

大正六年六月廿六日接受 駐政務局 第一課

大正六年十一月十五日

在 輝春

分館主任 岩越 美高

外務大臣法學博士子爵本野一郎殿

支那軍隊異動ニ関スル件

孟吉林督軍ノ電命ニ依リ當地支那軍隊ハ吉林長
春方面ニ集中セラレ其一部百二十五人客月廿六日
當地出發長春ニ向ヒ尚續々出發ノ趣ハ客月廿七日
第五九號電ヲ以テ及報告候通リナルガ其後續
テ出發第一營ノ全部ハ客月中ニ出發長春ニ向

在間島總領事館輝春分館

ヒタル處途中ニ於テ更ニ當地ニ引還スベキ旨命
令ヲ受テ歸還中ナル處其一箇中隊ハ第一着ニ
一昨十三日夜歸還シ他ノ三個中隊ニ續々歸
還ノ旨ナリシニ今夜歸還ノ途中ニアル第一營ノ
全部ハ再ヒ吉林ニ來ルメキ旨突然孟督軍ヨリ電
命アリタル由ニテ右第五營ノ全部ハ更ニ吉林ニ向
テ引返ス由ニ有之候

右軍隊異動ニ関シ當地陸軍當局者ニ就キ聞ク
處ニ依レバ今回ノ電命ハ全ク突然ニシテ如何ナル理由
アリテ一旦歸還ヲ命ジタル軍隊ニ更ニ引返レ方
命令シタルモノナルカ原因不明ナルモ其想像ニ依レバ
元來當地ニ聯隊本部アリテ三營駐セシ即チ混
成第二旅第二大隊ノ一、二、三營駐セスル筈ナル處

夕照の霞(背海)

満

MT 1614 6 4459

MT 1614 6 4458

REEL No. 1-0657

0249

第二營ハ去民國二年蒙匪討伐ノ為メ吉林ニ出動シ
 今日迄歸陣セズ其儘トナリ目下二營ノミナルカ聯隊
 長ハ常ニ軍隊ヲ當地ニ駐セシムル目的カ若シ國防
 ノ為メナルニ於テハ二營又ハ三營ノ軍隊ニテハ一朝有
 事ノ場合ハ何等有効ナル行動ヲ執ル能ハズ將又
 馬賊防備ノ目的ナルニ於テハ一營丈ケニテ充分ナリト
 ノ意見ヲ有シ居リ且自身當地ニ駐セスルヲ好マズ
 督軍トノ關係モアリ吉林又ハ其附近ニ常駐シ度
 キ希望ヲ有シ居タルカ聯隊長ハ本月一日當地出發
 浦塩哈爾賓ヲ經由吉林ニ趣キタルヲ以テ今右ノ
 意見ヲ直接孟督軍ニ陳述シ督軍ニ於テ聯隊
 長ノ意見ヲ容レ奉ル突然右命令ヲ發シタルモノト
 想像セラル、由ニ有之候若シ右様ノ次第ナレバ聯隊

在開島總領事館軍務分館

本部が吉林ニ移ルモノナルニ付當地ニハ第三營カ
 駐セスルノミニテ聯隊ノ幹部ハ全部吉林ニ移駐
 スルニ至ル由ニ有之候尚前頭抵電後段第三營ノ
 出勤準備命令ハ取消サレ今後モ其儘當地ニ駐
 セスル由ニ有之候

右及報告候敬具

本信寫送付先

立支那公使

問島鈴本信領事代理

MT

1614 6

4461

MT

1614 6

4460

第3門

540759

補12991號

大正六年五月廿七日接受

大正六年五月廿七日接受

參謀部第六七號

駐發高

第一課

特號、件報告

大正六年五月二十日

關東都督府陸軍參謀長高山公通

外務次官幣原喜重郎殿

別冊特第七號及報告候也

陸軍

MT 1614 6 4462

○湯

手渡り()

12

秘
録
第七號

大正六年六月三日 關東都督府陸軍參謀部

目次

吉林事件ノ顛末

MT 1614 6 4463

REEL No. 1-0657

0252

吉林事件ノ顛末

一、原因

吉林督軍孟恩遠、張勳ノ復辟失敗
以來自己ノ位置ニ不安ヲ感シツツアリ
シカ十月十九日朝突如總統令ヲ以テ十
八日附誠威將軍ニ特任シ察哈爾都
統田中玉ヲ其ノ後任トスルノ電命ニ接
セリ

本原因ニ就キ吉林督軍署一等副官
查富煜曰ク是實ニ曩ニ吉林ヲ遁走
セル督軍署參謀張德發カ北京要路
ニ對シテ孟恩遠以下ノ復辟ニ關スル内
幕ヲ曝露シ且大理院ニ向テ之ヲ上訴
シタルニ依ルモノナリト或ハ夫レ真ナランカ
此ニ於テカ孟督軍ハ大ニ驚キ直ニ四鎮
守使ヲシテ北京政府ニ交送ノ理由ヲ電
問セシメ一方又省長及省議會、商務會ヲシテ
電報ヲ以テ孟督軍ノ吉林ニ於ケル十
數年來ノ功績ヲ舉ケテ威嚇的引留
運動ヲ起サシメタリ而シテ自ラハ却テ
速ニ田中玉ノ來吉シテ交代スルヲ望ム
トノ督促電報ヲ發シ竊ニ前記諸電報

MT 1614 6 4465

MT 1614 6 4464

540761

ノ返電ヲ待テ其ノ進退ヲ決セントスル
モノノ如シ

論者或ハ曰ク孟督軍ハ政府ニ對シテ及
抗スルノ意思ナク其ノ天津ニ貯ヘタル財
産ヲ以テ老後ノ安逸ヲ樂マントスルモ
ノナリ然ルニ元吉林參謀長タリシ旅長
高士儻ハ其ノ姻戚ナルカ故ニ孟督軍
ノ進退ハ彼ノ利害ニ係ル所尠カラス殊
ニ田中王就任ノ上ハ現地位ヲ保ツコト
スラ疑ハシキ立場ニ在リ此ニ於テカ孟
一派ヲ教唆シ以テ前記ノ處置ニ出テタ

ルモノナリト或ハ然ラン然レトモ孟ハ張勳
ノ復辟問題ニ關係アリ最近戴軍務
課長ヲ北京ニ遣ハシ密ニ馮總統及段
總理ニ就キ自己ノ進退ニ關シテ指示
ヲ請ハシメ其ノ現地位ニ在ルヘキノ言質
ト總統ヨリ慰撫ノ辭ヲ得タルヲ喜ヘリ
然ルニ今俄カニ轉任ノ命ニ接シタルハ
彼レノ甚ク快シトセサル所ニシテ而モ上
京ノ後馮德麟同様ノ運命ニ陥ランハ
其ノ最モ怖レル所ナルヘシ而シテ孟ハ今
次交迭ノ原因ニ就テハ是必ス段總理

MT 1614 6

4467

MT 1614 6 4466

540762

540761

ト奉天督軍張作霖ノ畫策ニ基キタル
 モノニシテ畢竟張督軍カ滿洲ニ霸者
 タラントスル野心遂行ノ第一歩ナリトナ
 セリ老練ノ孟々假令鐵面耻ヲ知ラスト
 スルモ然レトモ徒ラニ若輩張ノ奸計ヲ
 忍ト唯々トシテ吉林ヲ去ルモノナランヤ
 故ニ這回事件ノ構成ヲ以テ高士嶺ニ
 味ノ策トノミ信スルハ早計ナリトス

ニ吉林軍ノ出兵ト日本ノ援助切望

孟督軍ノ一派ハ北京政府ヨリ三日以内
 ニ返電ナキニ於テハ自由行動ヲ取ルヘ

キヲ宣言シ專ラ出兵ノ準備ヲ為シツ
 ツアリシカ二十三日ニ至リテ遂ニ名ヲ機
 動演習ニ藉リ軍隊及兵器ヲ長春ニ輸
 送シ司令部ヲ同地ニ置キ吉長鎮守
 使裴其勳ヲ總司令ニ任シ以テ威嚇的
 態度ヲ示セリ然レトモ是軍ニ虛勢ニ
 過キスシテ奉天軍一度討伐ニ任セラレ
 ンカ彼等ハ忽チ風ヲ望ミテ四散スルニ
 至ルヘカリシナリ

孟督軍亦自軍ノ力ヲ確信セサルカ故
 ニ茲ニ日本ノ後援ヲ得テ事ヲ有利ニ解

MT

1614 6

4469

MT

1614 6

4468

決セント欲シ二十四日陳顧問ヲ我在吉林武官ノ許ニ遣ハシ非公式ニ歎願シテ曰ク昨二十三日張作霖ヨリ中央政府ノ命ニ從ハサレハ我々於テ採ルヘキノ處置アリトノ電報ニ接シ孟ハ今又自ラ起タサルヘカラサルヲ自覺シ目下各要點ニ兵力ヲ集合シ又黑龍江省英、巴兩旅長トハ穩密ニ連絡ヲ保持シツツアリ然レトモ武力解決ハ元ト是孟ノ本意ニ非サルヲ以テ此際關東都督ノ盡力ニ依リ事ヲ平和ニ解決センコトヲ

望ム旨陳述シ且日本軍事顧問招聘ノ希望ヲ有スト附言セリ

然レトモ孟カ日本ノ後援ヲ切望セルハ決シテ其ノ真意ニ非ス一時我ヲ利用シテ窮境ヲ脱ヤントスル老獪手段ニ過キサルナリ彼ハ平素帝國ニ對シテ良好ナラス為ニ吉林ヲ排日思想ハ常ニ高潮ニ達シ我國民ノ受クル不利尠カラサルモノアリ故ニ吾人ハ孟ノ驅逐ヲ期待スルコトスシク這回ノ出來事ハ之カ實行上逸スヘカラサルノ好機ナリト思考シタルヲ以

MT

1614 6

4471

MT

1614 6 4470

540764

テ固ヨリ其ノ來旨ニ明答ヲ與ヘス以テ我政
府ノ支那政府側ニ對スル好意的不干渉
ノ態度ニ順應セリ但シ應聘武官ヲ吉林
ニ入ルルコトハ更ニ適當ノ機會ヲ捕フルニ
躊躇セサルヘシ

三 北京政府ノ態度

事態敍上ノ如ク進展ヤシカ故ニ北京政府ハ
二十四日張督軍ニ電命スルニ東三省治安維
持ノ為十分ノ準備ヲ整ヘ事ニ當リテ
違算ナキヲ期スヘキヲ以テシ一面孟督軍
ニ對シ貴官ハ省内ノ治績多クシテ榮轉

セシメタルモノナリ而シテ急遽赴任ヲ要セサ
ルカ故ニ須ラク省内ノ實情ニ鑑ミテ相當
ノ處置ヲナシ交代ヲ準備スヘシ特ニ此際
軍隊ノ輕舉妄動ヲ戒メサルヘカラスト訓
電セリ

此ニ於テ張督軍ハ二十五日軍事會議ヲ
開キテ吉林討伐軍ノ編成等ニ就テ議
スル所アリ蓋シ張作霖ハ中心東三省
統一ノ好機到來セルヲ喜ヒ只管北京
ヨリノ命令一下ヲ期待ヤリ
然ルニ三十日ニ至リ政府ハ張奉天督軍

MT 1614.6 4473

MT 1614 6 4472

REEL No. 1-0657

0257

540765

ニ討伐準備ノ中止ヲ電命シ且孟督軍ニ
ニ箇月ノ赴任延期ヲ命シ陳文運何宗
蓮ヲ吉林ニ遣ハシテ調停ノ任ニ當ラシム
是裴鎮守使カ密ニ人ヲ北京ニ遣ハシ孟
恩遠ノ轉任ヲ喜ハサルハ復辟事件ノ罪
ヲ問ハルルヲ恐ルルカ為テリ故ニ其ノ誤解
ヲ解クニ於テハ平和的解決ヲ見ルコト
敢テ困難ニ非サルヘシト説キタルニ因ルハ
シト雖然レトモ現下政府ハ西南多事
ナルノ時ニシテ遠ク北方ニ武力的壓迫
ヲ加フルノ餘裕ナク為ニ平和的解決手

段ヲ用フルニ至リタルハ明カナリトス政府ノ
軟弱夫レ豈ニ獨リ奉天督軍張作霖ヲ嘆ヤ
シムルノミナランヤ

四、陳、何ノ調停ト妥協成立

陳文運及何宗蓮ハ十一月一日孟督軍ニ
會見シテ曰ク今回政府カ貴下ニ晉京
ヲ命シタルハ貴下カ在吉軍治十數年
効績誠ニ顯著ナルヲ以テ特ニ誠威將軍
ニ任シ目下國家多事ノ際中央ノ樞機
ニ參與セシムルモニシテ敢テ他意アルニ
非ス故ニ部下ヲ戒飾シテ過激ノ行動ニ

MT

1614 6

4475

MT

1614 6

4474

出テシムヘカラスト力説セシカ孟督軍ハ
 混成第五旅ノ新設ヲ承認スヘキコト及
 吉林ノ四鎮守使中ヨリ後任ヲ選定スヘ
 キコトヲ要求シ未タ協定ヲ見ル能ハサリ
 シカ五日ニ至リテ遂ニ左ノ條件ニ依リ妥協
 成立スルヲ得タリ
 一、督軍交代ノ命令ハ中央ノ威信ヲ損セサ
 ル為取消ササルコト
 〇、中央ノ命令ニ依ル孟督軍ノ晉京ハ免
 セラレルコト
 ハ、孟督軍ヨリ大總統ニ對シ謝罪ヲナス
 コト
 ニ、孟督軍ノ位置ハ暫時現状ノ儘トシ來
 春ヲ俟テ孟ヨリ辞表ヲ呈出スルコト
 ホ、今回ノ事件ニ關聯セル旅長其ノ他ニ對
 スル處分ハ免セラレルコト
 へ混成第五旅ノ編成ハ經費ノ支出困難
 ニ付取消スコト
 等ニシテ孟督軍ニ在リテハ稍々其ノ面目
 ヲ保持シ得タルヲ喜々茲ニ事件ノ落着
 ヲ見ルニ至レリ
 上述ノ如ク事ノ平穩ニ解決シタル事

MT 1614 6 4477

MT 1614 6 4476

竟北方ニ對スル政府ノ威力足ラサリシカ
為テリト雖然レトモ亦過日奉天及山東
ヲ除ク十七省ノ督軍及都統等ヨリ大總
統ニ對シ孟ノ留任ヲ電請シタルモノ與テ
大ニカアルヲ信ス

此ノ間張奉天督軍ハ五日第二十七師ヲ
シテ吉林方面ニ出動セシメ又汲第二十八
師長ニ混成一旅ノ出動準備ヲ命ス是皆吉
林ニ對スル脅威ニシテ而モ張作霖ハ機
若シ到ラハ事ヲ構ヘテ其ノ宿志ヲ達セン
ト焦慮シツツアリシメ知ルヘキナリ

吉林軍隊ハ七日ヨリ撤退ヲ始メ次テ奉天
軍一部ノ北進ニ依リテ一時之ヲ中止シタ
ルモ暫クシテ再ヒ撤退ヲ繼續セリ而シテ
十二日ニ於ケル郭省長及裴旅長晉京
ノ結果ハ未タ明白ナラスト雖一先ツ之ヲ
以テ落着ク告ケタルモノト信ス但シ支
那現下政局ノ如何ニ依リテハ再ヒ奉
吉兩省間ニ如何ナル葛藤ヲ惹起スル
メテ計リ難シ

MT

1614 6

4479

MT

1614 6

4478

540768

540707

本書發送先

關東都督府參謀官 同警務總長 關東憲兵隊長
 參謀 次長 陸軍次官 外務次官
 朝鮮總督府武官 朝鮮駐劄軍參謀長 朝鮮駐劄憲兵隊長
 支那公使館附武官 坂西少將 支那駐屯軍司令官
 青島守備軍參謀長 支那派遣隊司令官 上海駐在武官
 台灣總督府陸軍參謀長 獨立守備隊員官 第七師團參謀長
 南滿洲鐵道株式會社理事長

MT

1614 6 4130

REEL No. 1-0657

0261

電信課長

540769

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官



了

奉天(暗) 本有着 大正六年十月 二十日 午後二時
二十日 午前二時

本野外務大臣

赤坂總領事

第三七五号

十一月二十八日 張作霖ニ就吉林郭省長代理カ上京申 數日前省長ニ任命セラルル事情注ニ 昔長鎮守使斐其勳カ北京ニリ帰途奉天ニ立寄りタル事情ヲ尋ねタル 慶張白ク郭ト斐トノ向ハ内約アリテ 上京申馮總統ニ對シ郭ヲ省長ニ、郭ハ 斐トノ内約アリ

たしめを以て(内約)の

〇

MT

1614 6 4481

540769

斐ヲ督軍ニ互ニ推薦シタル結果今回郭省長任余ヲ見タルモノニテ 斐又モ亦馮總統ヨリ吉林督軍ニ任命スレトシ、内諾ヲ得タル 趣ナリ但シ其実現スルハ三四ヶ月後 孟督軍ノ田滿韓職後ナリ在ハ 斐又カ張作霖ニ極秘トシテノ直説ナル趣ニテ 斐又ハ此趣ヲ張ニ告ケ 將來援助ヲ求ムル為メ能心ニ奉天ニ立寄りタルモノナリ由ニテ 張ハ斐ヲ以テ與シ易レトナシ居レリ 在又石使、南東都督、長春鎮守、吉林領事

MT

1614 6 4482

電報

MT

1614 6 4483

REEL No. 1-0657

0263

540770

第13080號

大正六年十月廿九日接受

警務局

第三課

満

番

圖們江方面支那領情況彙報
熊琿春縣知事着任後ノ情況

十月八日朝憲機第三四五號参照

第3門

新任知事熊孟鰲着任ノ件ニ関シテハ既報
シタル處ナルカ熊知事ハ十一月四日縣下
各區官ヲ招致シ新任ノ挨拶ヲ述ヘタル後
左ノ訓示ヲ與ヘタリト

過般ノ琿春事件ヲ引例シ琿春ニ日本軍
隊ヲ進出セシムルニ至リタルハ畢竟警

察官ノ職務怠慢ノ結果ニシテ若警察官
カ其ノ職ニ忠實ナルニ於テハ斯ル重大
事件ノ發生ヲ見スシテ解決セシサルハ
シ之カ爲支那ノ國威ヲ汚損セシメタル
ノ責任ハ實ニ重大ナリト謂ハサルハカ
ラス各官ハ此ノ失態ニ鑑ミ將來自己及
部下ヲ戒飭シ再ヒ失態ナキヲ期スヘシ
云々

二琿春勸業所長ノ鮮人所遇ニ関スル進言
琿春勸業所長河康憲ハ朝鮮人所遇ニ関

MT 1614 6 4485

MT 1614 6 4484

手記
○

540771

シ 熊知事ニ対シ左ノ如キ進言ヲ為シタリト
 日本軍隊一時揮春ニ駐此セシ以來鮮人
 ノ日本ニ帰順スル者續出シ此ノ趨勢ヲ
 以テセハ琿春地方ノ鮮人ハ遠カラスシ
 テ全部日本ノ勢力範圍ニ帰スヘシ故ニ
 此ノ際之カ防止ノ策トシテ鮮人ニ入籍
 ヲ勸誘シ鮮人子弟ヲシテ支那側學校ニ
 入學セシムルヲ要ス若シ之ニ應セサル者
 ハ断然國外ニ放逐スルノ方法ヲ執ラサ
 ルヘカラス云々

以上
報告通報先

總督	政務總監	總務局長
陸軍大臣	參謀總長	關東都督
軍司令官	師團長	憲兵司令官
内閣書記官長	拓殖局長官	外務次官
關都警務總長		

MT

1614 6

4487

MT

1614 6

4486

REEL No. 1-0657

0265

540772

大臣
次官

電信課長

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官



大臣

奉天
本野務大臣

赤塚総領事

奉天
本野務大臣
赤塚総領事

本官及在支公使宛電報第一二九號

貴電第一二一號、因に張作霖が去二十四日奉天

ヲ暴動シタル以前彼が優に坂東ヲ暴訪ヲ請ヒ内幕ヲ

知りタル所ニ依リ彼ノ心中ヲ察スルニ彼ハ段祺瑞ノ

失脚ハ直今ニ已ニ地位ニ動搖ヲ来スモノト為シ一時

ニ不安ノ念ニ驅ラレタルモ其後天下ノ形勢尚混沌ト

シテ直隸 派中又一致ヲ缺キ如何ナル人カ内閣ヲ

移運山陰防衛云々

組織スルモ亦馮總統ヨリ如何ニ嫉視セラレ、モ一面
ニハ日本ト固ク握手シ他而部下ノ結束ヲ固クシ充分
ノ準備ヲ整へ自重ノ態度ヲ持スルヲ務メテ容易ニ
自己ノ地位ヲ動カス能ハサルハ若シ又之ヲ動カサ
ントスルモノモ其場合ニ於テ其最近吾林ノ例モ了シ其
行容易ナラザルベク別ニ恐人ニシテ是ヲ為シ之カ為
メ却テ度胸ヲ極メタルモノ、如シ去二十四日本官ト
會見ニ於テ張作霖ハ決心ヲ最モ示シ其後見
ハレ當時彼ハ現下政変ヲ推移ヲ請ヒタル後彼
ノ立場ヲ作人者日本ノ援助ノ下ニ東三省ヲ統一

MT

1614 6 4489

MT

1614 6 4488

REEL No. 1-0657

0266

540773

シ日本ノ指導ニ依リ富源ノ拓、實業ノ進行ヲ
計リ實力ヲ養ヒ以テ中央ニ對シ而廣方面ニ於テ
陸榮廷ノ地位ヲ作ラントスル意見ヲ述ヘ斯クテ
東三省ニ於テん地位ヲ確立シ、日本ノ意向ニ
從ヒ其地位勢力ヲ利用シテ變轉極ラナキ支那
政府ニ對シ北方ノ一大重鎮ヲラントスル意味ヲ反
メカレ之ニ對スル本官及日本政府ノ意向ヲ承知
シタキ旨ヲ達シん次第ニシテ本官ハ之ニ對シ貴督
軍ガ東三省ニ根據ヲ固メ實力ヲ養ヒ以テ中央
ノ政府ヲ監視セントスルノ意圖ヲ有セテハハ支那

MT 1614 6 ; 4490

ノ政府不安定ノ現状ニ徴シ已ムヲ得ストスルモ然
際飽迄自重シ順逆ヲ誤マルベカラスト友誼的ニ
忠告シ且日本政府ノ貴下ニ對スル同情ハ嘗テ
内幕ニ傳ヘ置キタレトシテ今日ト雖モ毛渝ルコ
トナキヲ以テ安心セシタキ旨附言シ置テリ
外務大臣ハ電報セリ

MT 1614 6 ; 4491

電信課長

大臣 次官 540774



政務 通商 人事 會計 文書 參政官 副參政官

大 3

三五
六

本野務大臣

赤塚徳欣事

奉天省 大正五年五月一日付
中省署 二月廿二日

張督軍之款ヲ通ス者ノ帰任ノ途次當地ニ立
寄リタル郭吉林省長ハ千二百初メテ本府ヲ
弟訪ニ張督軍トノ間ニ充テラシメテ解リ遂テ
ル上ヲ述ヘ且ツ本邦人ノ吉林省ニ於ケル事業
ハ今後益々歡迎スルキ旨ヲ語リタル付本府ハ
吉林省ハ我國及奉天省ト特殊ノ關係ヲ有
スニ鑑ミ爾後愈々密接ナル關係ヲ結ブ相

互ニ有利ナル交渉ヲ結ビ爾後置キタリ
在支公使 長春 吉林へ電報セリ

MT 1614 6 4493

MT 1614 6 4492

REEL No. 1-0657

0268

540776

ト語レリ
暴ノ言動等アルヘカラサル旨戒飭シタリ
紀振肅ニ努メ且日本領事分館員ニ對シ粗
ヒ新任ノ挨拶ヲ為シ尚將來部下巡警ノ官

報告通報先
以上

總督
陸軍大臣
軍司令官
内閣書記官長
拓殖局長官
外務次官
憲兵司令官
政務總監
參謀總長
師團長
總務局長
關東都督

關都警務總長

MT 1614 6 4497

MT 1614 6 4496

REEL No. 1-0657

0270

540777

電信課長

七五

大臣
次官

志

本野外務大臣

赤塚総領事

奉天 六月廿五日
本野著

政務

通商

人事

會計

文書



參政官

副參政官

張勳軍八月四日坂東ニ在リ通津ヲリテ

馮總統ノ命ヲ令ニ據テ上京中ナリニ願向劉

ハ本月二日帰奉シ且下國家多事ノ際方々重キ

ヲ為シツアス貴督軍ハ誠意以テ總統ヲ幫助シ

吳人ハヤ否ヤ云々ト馮ノ傳言ヲ齎ラシ且自今

ノ上京方々求メ奉リタシ付自今ハ之ヲ對シ總統ハ

一國ノ元首トシテ無端元首ノ命ハ之ニ從

候ハズ

本野外務大臣 (署名)

〇

MT 1614 6 4498

スベシ自今ハ國ノ興衰ヲ意トスモ之テ段一人失

脚ト否トヲ意トシツアムモ之ヲザンヲ以テ疑心ナ

カシコトヲ決メ但シ國家ヲ以テ意トスモ之ヲ

以テ者モ國ヲ素リ民ヲ毒スルガ如キ命令ニ對シ

テハ何等カノ言議ヲ挾マザンバカラスト者ハ置キタ

ク劉ハ本朝ノ上京セリ自今ノ上京ハ楊 春傑長ハ

天津ニ赴キ不在ナント目下ノ情勢直チニ離任

スル能ハザル次第ヲ述ニ置キタシモ楊ノ歸來ヲ

待テテ如何ノ依リ上京ニ考テリ云々

MT 1614 6 4499

REEL No. 1-0657

0271

540778

第13366號

大正六年三月五日 接受

駐政務局

第一課

電報

十二月三日

日午前午後

八時

五二分著

總長宛

在北京土肥原大尉

取扱者

上村大尉

坂電第八九號
二月總司令マテ黑龍江督軍ハツキケヨリ騎兵第四旅長
英順ハ長官ノ強制ニ公金ヲ費消セルニ依リ其官職ヲ削
奪シ費消官金ヲ賠償セシメテ願出ラタルヲ以テ英順ノ
陸軍少将ノ官職及旅長本職ヲ削奪シ消費セル官金更ノ弁
償セメテ軍紀ヲ振整シ公金ヲ重ス去マシ又該省ノ
步兵第一旅長把英額ノ辭職出願ヲ許シ其本職ヲ免ス

陸軍

MT 1614 6 4500

第13413號

附屬書類添附

大正六年三月六日 接受

陸軍參謀部第七六號

駐政務局

第一課

謀略

件報

告

出

大正六年三月一日

關東都督府陸軍參謀長高山公通

外務次官幣原喜重郎殿
別冊謀策第壹壹四號及報告候也

陸軍

MT 1614 6 4501

540779
NO. 13

謀報 第一一四號

大正六年十月二十日 關東都督府陸軍參謀部

支那 目次

軍事

- 一 吉林督軍公署ノ第五混成旅解散
- 二 黑龍江省陸軍新編制
- 三 奉省被服廠設立計畫
- 交通

時事

- 一 吉林附近松花江ノ現況
- 二 黑龍江省事件
- 三 吳俊陞ノ滯齊期
- 四 蒙匪ノ黑省襲撃
- 五 北京政變ト王吉林督軍署參謀長談
- 雜報
- 六 吉林財政廳長唐瑞銅ノ辭職
- 七 郭宗熙省長ニ任セラレ

新聞翻譯 山手

MT 1614 6 4503

MT 1614 6 4502

REEL No. 1-0657

0273

支那軍事

吉林督軍公署ノ第五混成旅解散(吉林報)
吉林督軍公署ノ第五混成旅編成ノ件、地方農商
民等ノ本旅編成ニ関シ依然反對ノ唱へ居レリ
ト一方奉天軍界ノ示威運動ヲ中止セラレタル
ヲ以テ愈々其ノ計畫ヲ取消スコトトナレリ、

黑龍江省陸軍新編制

(哈爾濱報)

黑龍江省陸軍ハ今回從來ノ第一師及騎兵第四
旅並新募軍隊ヲ混成四旅ニ改編シ左ノ如ク旅
長ヲ任命セリト云フ

混成第一旅長 李榮廷

同 第二旅長 劉德權

同 第三旅長 鄂雙全

同 第四旅長 袁慶恩

右ノ内混成第四旅ハ英領ノ舊部下タリシ獨立
騎兵ノ殆ト全部ヲ以テ編成セラレタルカ如ク
他ノ旅ハ步騎ノ混成ニシテ其ノ營數ハ未夕決
定セス

以上ノ新編制ニ朝三暮四ノ改命ヲ意トセサル
支那式ノ決定ナルヲ以テ之ヲ以テ果シテ不變
ノ編制ト見ルヘキヤハ未夕邊ニ漸言シ難シ

MT

1614 6

4505

MT

1614 6 4504

540781

奉省被服廠設立計畫 (奉天報)

奉天督軍張作霖ハ過般楊參謀長張五十三旅長
王憲兵營長王警務處長等ト計リ奉天省城ニ被
服製造廠ノ設立ヲ討議セリ今其ノ内容ヲ聞ク
ハ同廠ハ陸軍警察等ニ於ケル所要ノ被服裝具
其ノ他各種ノ物品ヲ製造シ二十七師各隊憲兵
營督軍公署衛隊測量局軍械廠警務處營口海防
練軍營及安東警察廳等ニ供給スルモノナリ廠
長トシテハ督軍公署軍事顧問ニシテ清鄉總局
會辦タル富葆廉ヲシテ兼任セシメ經理主任ト

シテ元黑龍江省被服製造廳經理潘炳榮ヲ採用
スル等ナリト云フ(密領)其ノ官營トスルハ私營
ナルハハ詳ニセサルモ未ダ中央部ニ何等報告
シテテサルヲ見レハ多分表面私營トシテ彼等
カ私腹ヲ肥スノ具ニ供スルナラン

MT

1614 6

4507

MT

1614 6

4506

540782

537042

支那交通

吉林附近松花江ノ現況 (吉林報)
 吉林ニ於ケル昨今ノ氣温ハ零下十四度乃至十
 六度ニシテ市街附近ノ松花江ハ結凍約二吋ニ
 達シ江心ノ一部ニ猶多少結氷ヲ見サル所アル
 此ノ部分ニハ木材ヲ架設シ人馬ノ往來スル
 モノアルニ至ルカ此處數日ヲ經過セハ到ル
 處通行支障ナキニ至ルヘシ

MT

1614 6 4508

REEL No. 1-0657

0276

540783

支那時事

黑龍江省事件 (哈爾濱)

第二十九師長吳俊陞ハ部下砲兵一營ヲ引率シ
參謀千濟川ト共ニ十一月十六日午後齊々哈爾
ニ入城セリ但シ砲ヲ有セス乘馬砲兵ニシテ小
銃ヲ携帶ス洮南ヨリ北行セルハ騎兵一旅ニテ
目下大赉縣太來溪ニ宿營シアリ齊々哈爾ニ來
ラストス

英ノ革職ニ次キ巴ハ對シテ免職ノ命令來リ居
ルモ之ヲ同時ニ發表スレハ騷擾ヲ大ナラシム
ルヲ慮リ之ヲ秘シ居ルトノ噂アリ

吳俊陞ノ入城ニヨリ鮑督軍ハ百萬ノ援兵ヲ得
タルモ同様ニテ此際及對派ノ全部ヲ黙クルナ
ラン既ニ左ノ如ク任免アリタリ

呼蘭縣知事鍾繼五免職後任督軍署軍務課長
雲沛然

政務廳長蔡運升免職後任鄭謙

英順ニ左担セル黑龍江省々議會ハ既ニ解散セ
リ不日新ニ選舉セラレハシ

督軍署參謀長張怒ハ今回ノ騷ノ責ヲ負ヒ自ら
辭職セリ

而シテ黑龍江省ノ騷乱ハ一先ツ鎮靜セルモ是

MT 1614 6 4510

MT 1614 6 4509

全ク艱督軍ノ自力ニ非スシテ張作霖ノ後援ニ
因ル從テ今後黑省ニ對スル張ノ威力ハ大ニ伸
長スルニ至ルヘシ而シテ英巴兩將ノ今回ノ企
圖ハ全然壓伏セラレタルノ觀アルモ果シテ永
ク此ノ侮辱的境遇ニ甘スルヤ否ヤハ疑問ナリ

三、吳俊陞ノ滯齊期（同上）

吳俊陞ノ來齊ハ左ノ用件ヲ帶フト

一、奉天ト聯防ヲ計畫ス

二、鮑督軍ヲ援助シ今回ノ擾亂ノ善後策ヲ講
シ軍隊ノ改編及軍紀ノ整頓並根本ノ廓清

ヲ行ヒ再々權勢ノ爭奪ヲ生セサラシム

以上ノ事由ニ依リ吳俊陞ノ歸任ハ目下未定ナ
リ

三、蒙匪ノ黑省襲撃（同上）

十一月十九日突然二千名ヨリ成ル蒙匪ノ一團
齊々哈爾西方ニ現出セルノ報ニ接シ張奎武及
吳士傑ハ討伐ノ命ヲ受ケ十九日夜出發シ續テ
二十日午後袁慶恩ニ亦騎兵一營ヲ引率シ討伐
ニ向ヘリ二十日齊々哈爾ニ傳ヘラルル所ニ依
リハ蒙匪ハ同地西方約四十支里ノ前平房後平

MT

1614 6

4512

MT

1614 6

4511

房附近一帯に於て掠奪ヲナシ齊々哈爾方向ニ
前進中ナリト

北京政變ト王吉林督軍署參謀長談 (吉林)

吉林督軍公署參謀長王瑞林ノ北京政變ニ関ス

談話左ノ如シ

國務總理段祺瑞ハ再ニ辞任シ總統令ヲ以テ
二十三日汪大燮ヲ臨時國務總理ニ十九日王
士珍ヲ陸軍總長ニ任命シタル旨ノ電報ニ接
シタリ蓋シ各省ノ同情ヲ有セサル段内閣ノ
瓦解ハ當然ノ運命ニシテ之ニ依リ南北ノ妥

MT

1614 6 4513

協成立スヘク世間或ハ彼ノ失脚ノ為新ニ禍
乱ヲ惹起スヘシト觀測スルモノアルモ決シテ如此
憂ヒナカルヘシ何トナレハ彼ハ當分東京ヲ
阻止セラレルヲ明カニシテ假令北京ヲ去リ
武力ヲ以テ其ノ頽勢ノ挽回ヲ計ラントスル
モ恐ラクハ之ニ雷同スルモノナカルヘク若
シ夫レ吉林ニ在リテハ段内閣ノ壊倒ニ依リ
テ危險ヲ脱出シタルニ等シク孟督軍ハ馮大總
統及王士珍ト密接ノ關係ヲ保持シアルヲ以テ今
後督軍ノ地位ハ頗ル鞏固トナレリ又吉林省ハ
政變ニ関シ未ダ奉天側ト何等ノ打合ヤシ居ラス

MT

1614 6 4514

540786

支那雜報

吉林財政廳長唐瑞銅ノ辭職(吉林)
 吉林軍界ノ及政府運動開始以來迴避ノ手段トシテ病ト偽リ吉林東洋醫院ニ入院シ居タ
 ヲ新吉林財政廳長唐瑞銅ハ突然政府ニ向テ辭表ヲ呈出シ之ニ對シ政府ハ後任トシテ直隸省人前參議院議員タリシ劉彭壽ヲ任命ノ旨十一月二十日附ヲ以テ發表シタルカ唐廳長ハ段政府ノ任命ニ係ルヲ以テ其ノ辭職ハ段内閣瓦解ノ結果吉林軍界側ノ壓迫ヲ恐レタルニ由ルナラント傳ヘラル

MT 1614 6 4515

吉林督軍署王參謀長ノ言ニ依レハ從來署理吉林省長タリシ郭宗熙ハ今回省長ニ任命セラレタル旨二十四日滯京中ノ同人ヨリ通知アリタリト云フ

MT 1614 6 4516